

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子ども家庭福祉		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	太田 敬志
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・児童家庭福祉の概略について ・社会的養護の現状について ・家庭支援・子育て支援について 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の歴史的背景について学ぶとともに、児童虐待や発達障害など、社会的に支援をしなければならない子どもの現状について理解する。 ・家族形態や家族機能の変化について学ぶ ・少子化対策と子育て支援について学ぶ 				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	現代社会と子ども家庭福祉①	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の現状・要因・影響 ・変化する家族形態・子どもの貧困 		
2	現代社会と子ども家庭福祉②	<ul style="list-style-type: none"> ・家族機能の変化・子どもの遊びの変化・食生活・地域生活の変化 ・学校の問題 		
3	児童虐待	DVDを視聴し、レポート提出		
4	子ども家庭福祉の歴史(世界)	イギリスとアメリカの歴史		
5	子ども家庭福祉の歴史(日本)	明治期以降の歴史		
6	子ども家庭福祉理念と法律	児童福祉6法と児童福祉法改正		
7	子ども家庭福祉の機関と専門職①	相談(支援)機関と専門職の役割		
8	子ども家庭福祉の機関と専門職②	里親専門相談員の方を呼び、里親支援について体験談を聴く		
9	児童福祉施設	児童福祉施設の種類について学ぶ(小テスト行う)		
10	子ども家庭福祉サービス①	児童相談所における虐待対応の流れ		
11	子ども家庭福祉サービス②	子どもたちをケアする施設の種類と内容		
12	ひとり親世帯への施策	ひとり親世帯の現状と生活支援		
13	障がいのある子どもへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉施策と支援 ・保育サービスの多様化 		
14	母子保健施策と健全育成と保育サービス	仕事と生活の調和のための支援		

回	テ ー マ	内 容		
15	少子化対策と子育て支援	少子化対策の各種の取り組み		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	児童家庭福祉 第3版 子どもと家庭を支援する ミネルヴァ 2019	確認テスト 課題・レポート 期末試験	10.0% 20.0% 70.0%	欠席が3分の1を超える場合は期末テストを受験する資格を有しない。 【準備学習】前回学んだことを復習しておくこと

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子ども家庭支援論		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	藤原 希

授業の概要

子どものその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、それを実践するための方法、技術等について学ぶ。

授業終了時の到達目標

子育て支援施策について理解する。
保育士が行う子ども家庭支援について理解する。

実務経験有無 実務経験内容

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。

回	テーマ	内容
1	子ども家庭支援の意義と必要性	子ども家庭支援の意義 少子化
2	子ども家庭支援の目的と機能	子ども家庭支援の目的 機能と原則
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	子育て支援・次世代育成支援 子ども子育て支援新制度
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	社会資源とは 社会資源の担い手
5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義、子どもの育ち	保育者の専門性 子どもの育ち
6	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	保護者の支援 地域の支援
7	保育士に求められる基本的態度	保育士と保護者の信頼関係 バイスティックの7原則
8	家庭の状況に応じた支援	家庭の状況 保育者に求められる姿勢
9	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	地域の社会資源の活用 自治体・関係機関との協力
10	子ども家庭支援の内容と対象	子ども・保護者・地域 さまざまなアプローチ
11	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	保育所等が行う子ども家庭支援 地域づくりと子ども家庭支援
12	地域の子育て家庭への支援	地域の子育て家庭への支援 関係機関との連携
13	要保護児童及びその家庭に対する支援	要保護児童の全体像と背景 家庭に対する支援
14	子育て支援に関する課題と展望	ニーズの多様化 フォーマル・インフォーマルサービス

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ、テスト	前期のまとめ 試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	「子ども家庭支援論」中央法規	課題・レポート 期末試験	30.0% 70.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育の心理学		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	渡部 幸奈

授業の概要

心理学でいう発達とは、受胎から死に至るまでの人の心身の形態や機能に変化していく過程です。人間の生涯のころやからだの量的・質的变化についての主な理論を概観し、生涯発達について考えていきます。

授業終了時の到達目標

1. 人間の発達に関する主な諸理論を説明することができる。
2. 各発達時期における心理的な特徴と発達課題などを説明することができる。

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	発達心理学とは	ガイダンス, 発達心理学とは何か, 発達の原理
2	発達についての理論①	発達理論の歴史, 遺伝と環境
3	発達についての理論②	フロイト, エリクソン
4	言語の発達・知的発達	言語発達の道筋・ピアジェ レポート課題①
5	環境と発達・社会性の発達	スキールズとダイの研究, 遊びの変遷
6	感情の発達①	愛着理論, 内発的動機付けと外発的動機付け
7	感情の発達②	ハントの理論 レポート課題②
8	道徳性の発達	ピアジェ, コールバーク理論
9	青年期の発達	青年期の身体発達, 心理的特徴 復習) エリクソン
10	成年期の発達	ストレス, 中年期危機 復習) フロイト
11	老年期の発達	老いと衰え, 知的機能 復習) ピアジェ
12	現代社会と生活①	DV, 児童虐待 復習) 言語発達, 遊びの変遷
13	現代社会と生活②	発達障害 復習) スキールズとダイ, 動機付け
14	まとめ①	復習) 発達の原理, 青年期の心理, 道徳性の発達

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ②	復習) 発達理論の歴史, 遺伝と環境		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
発達心理学(近畿大学九州短期大学) 自作プリント		科目終末試験	100.0%	【学習準備】前回 学んだことを復習 しておくこと

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子ども家庭支援の心理学		保育・幼児教育学科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	渡部幸奈

授業の概要

本科目では、乳幼児期における各年齢期の発達の・心理的特性について発達心理学の視点から理解を深め、保育者の果たす役割や支援方法について考察する。

授業終了時の到達目標

人間の発達プロセスに関する基本的な知識を習得する。
 子どもの発達過程とそのメカニズムについて理解し、説明できる。
 授業で学んだ知識を用いて、乳幼児期における保育、教育、支援のあり方について考察できる。

実務経験有無 実務経験内容

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。

回	テーマ	内容
1	発達を学ぶ意義	なぜ発達を学ぶのか、発達するとはどういうことかについて説明し、保育の心理学を学ぶ意義について学ぶ
2	子供の発達と環境	子どもの育ちに「遺伝」や「環境」がどう影響するのかについて学ぶ
3	発達理論と子ども観・保育観	様々な発達理論を紹介し、「子ども観」や「発達観」について考える
4	身体と運動機能の発達	子どもの身体の発育・発達と運動機能の発達について学ぶ。
5	発達を支えるアタッチメント	アタッチメントの仕組みと形成過程について解説し、アタッチメントの重要性について考える
6	自己と感情・情動の発達	感情・情動の発達プロセスについて学ぶ
7	社会性の発達	「心の理論」や「いざこざ」を取り上げ、幼児の社会化のプロセスについて学ぶ
8	認知の発達	ピアジェの発達理論を中心に、子どもがどのように認知を発達させていくのかを学ぶ
9	言語の発達	言葉の機能と発達過程について学び、子どもの言葉の発達に保育者がどのように関わるべきかについて理解を深める
10	発達障害と発達	発達障害の基礎知識と支援方法について学ぶ
11	虐待から考える発達	虐待とマルトリートメントについて学び、子どもが幸せな生活を送るために保育者が取り組むべきことについて考える
12	保育に生かす学習理論	「学習理論」について学び、学習理論を実践に生かすための「行動理解」と「技法」の習得をめざす。
13	遊びの発達	遊びの発達に関する研究を紹介し、保育の中でよく見かける遊びからその発達の理解を深める

回	テ ー マ	内 容		
14	まとめと試験対策	これまでの振り返りを行う		
15	期末試験	期末試験を行う		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	白川佳子、福丸由佳『子ども家庭支援の心理学』中央法規	期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの保健		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	福原 里奈
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・小児の基本的な発達について学ぶ ・小児の疾病・障害などの理解を深め、予防や対応について学ぶ 				
授業終了時の到達目標				
子どもの発達や健康状態を把握し、個別な支援ができる保育士を目指す				
実務経験有無		実務経験内容		
有		病院・クリニック等で看護業務に従事。 その経験を生かし、看護的側面からの子どもに対する知識を学生に教授する。		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	こどものための小児保健	小児保健とは 子どもの保健とは		
2~ 3	身体発達と保健	発育には原則がある 乳幼児の計測 発育を評価する		
4~ 7	生理機能の発達と保健	自律神経 体温 呼吸 心拍 消化吸収 睡眠 排泄 免疫		
8~ 9	運動機能の発達と保健	新生児期 乳児期 幼児期 学童期		
10~ 11	精神機能の発達と保健	言語の発達 社会性の発達 情緒の発達 発達を評価する		
12~ 14	子どもの精神保健	子どもの心身の健康 発達障害のある子どもと対応 慢性疾患の子どもの抱える問題 育児環境 虐待		
15	子どもの生活と健康	集団生活が育むもの 保健における養護と教育		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
よく分かる子どもの保健		課題・レポート 期末テスト	20.0% 80.0%	テキストでの復習 をすること

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの健康と安全		保育・幼児教育学科/2年	2025/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	9回	1単位(18時間)	必須	福原 里奈
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・小児の基本的な発達について学ぶ ・小児の疾病・障害などの理解を深め、予防や対応について学ぶ 				
授業終了時の到達目標				
子どもの発達や健康状態を把握し、個別な支援ができる保育士を目指す。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
テキストでの復習をする。				
回	テーマ	内容		
1~2	子どもの疾病と保育	子どもの疾病の特徴 呼吸器疾患 重要な感染症		
3~4	子どもの疾病と保育②	消化器疾患 循環器疾患 泌尿、生殖器疾患		
5~6	子どもの疾病と保育③	中枢神経系疾患 代謝、内分泌疾患 血液、腫瘍疾患		
7	子どもの疾病と保育④	アレルギー疾患 整形外科疾患 その他の疾患 乳幼児突然死症候群 保育所での感染症の取り扱い 予防接種 身体障害のある子どもとその対応		
8	保健活動の計画及び評価	保健計画の作成と運用 保健活動の記録と自己評価 職員間の連携と組織的取り組み		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
よく分かる子どもの保健		課題・レポート 期末テスト	20.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの食と栄養		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	宮本 美佐子
授業の概要				
子どもの食と栄養の基本的理論を学ぶ。小児期の栄養・食生活が生涯にわたる健康と生活に関係があることを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
1. 子どもの健康と食生活の重要性を理解する。 2. 栄養に関する基礎知識をしっかりと学習する。 3. 食育の必要性を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		管理栄養士として23年間保育所や小中学校で栄養管理に携わった経験を活かし、より実践的・具体的授業展開を行う。		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活の関係		
2	子どもの健康と食生活の意義	子どもの食生活の現状		
3	栄養に関する基礎知識	栄養素の種類と機能		
4	栄養に関する基礎知識	食事摂取基準の意義		
5	子どもの発育・発達と食生活	発育・発達と栄養、食生活		
6	子どもの発育・発達と食生活	摂食機能の発達・食生活と子どもの健康		
7	妊婦・授乳婦の栄養ケア	妊婦の食生活		
8	妊婦・授乳婦の栄養ケア	母乳分泌と妊娠期・授乳期の食生活		
9	乳幼児の授乳・離乳の意義と食生活	乳幼児の心身の特徴と食生活の関係		
10	乳幼児の授乳・離乳の意義と食生活	乳汁栄養・離乳の意義		
11	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の心身の特徴と食生活の関係 間食の意義とその実践、幼児期の食育		
12	学童期・思春期の心身の特徴と食生活の関係	学童期・思春期の食生活 学校給食の重要性と食育		
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 障がいのある子どもの食生活	子どもの疾患と食生活 食事療法が必要な子どもへの対応 障がいの特徴と食生活 摂食・嚥下機能の発達		
14	児童福祉施設における	児童福祉施設の特徴と食生活 児童福祉施設の食事計画の基本的方針		

回	テーマ	内 容		
15	食育の基本と内容・方法	食育の基本的考え方 食育の方法		
16	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
近畿大学テキスト『子どもの食と栄養』		確認テスト 課題・レポート スクーリング	25.0% 25.0% 50.0%	【準備学習】前回 学んだところを復 習しておくこと

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児への特別な支援		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
障害の特徴や支援のあり方について				
授業終了時の到達目標				
障害の特徴を理解し、就学前の障害を持つこどもの保育や支援のあり方を理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内容		
1~ 2	障害児保育の概論	1) 障害児保育とは何か 2) 障害児保育の仕組み		
3~ 7	障害の特徴と保育の実施	3) 知的障害の特徴と保育での支援 4) 自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援 5) 注意欠陥・多動性障害の特徴と保育での支援 6) 学習障害の特徴と保育での支援 7) その他の障害の特徴と保育での支援		
8	まとめ・期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
よくわかる障害児保育		課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害児保育		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
障害の特徴や課題、支援のあり方について				
授業終了時の到達目標				
障害の特徴を理解し、就学前の障害を持つこどもの保育や支援のあり方を学ぶ。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内容		
1	障害児保育の体制づくり	1) インクルーシブ保育とは 2) 保育所・幼稚園での支援体制		
2~3	支援の技法	3) 家族への支援 4) 障害児のアセスメント 5) 発達支援の技法		
4~8	実技・レポート 他	6) 発達支援につながる遊び 7) 発達支援の教材作り 8) レポート 9) ディスカッション		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
よく分かる障害児保育		課題・レポート 実習・実技評価	40.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子育て支援		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	近大九州講師
授業の概要				
事例を通して子育て支援・社会福祉援助活動の実際と、社会福祉と相談援助を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
子育て支援・相談援助活動の基礎を習得し、援助展開における援助関係形成、援助過程や各技術を効果的に活用するための理論と方法を身につける。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内 容		
1	子どもをめぐる経済・社会状況	子どもを取り巻く経済・社会状況について		
2	子育て支援と行政	子育て支援として行政がどのようなものを行っているか		
3	子育て支援と地域社会	地域での子育て支援の取り組みについて		
4	子ども・保護者と保育士	子育て支援拠点としての保育所		
5	関係機関・専門職等との連携・協力・共同	どのような連携・協力・共同が行われているか		
6	社会資源の活用・利用方法	社会資源としての子育て支援		
7	社会福祉援助技術 事例研究	事例から子育て支援を学ぶ		
8	授業内容の振り返り	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		スクーリング	100.0%	近大九州現地スクーリング科目

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導 I (施設)		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
社会福祉施設の種別ごとの概要や利用者の特性を知ると共に、実習先の施設に対する事前学習や振り返りをおこなうことで、より社会福祉や社会福祉専門職としてのあり方等について熟慮することを目的とする。				
授業終了時の到達目標				
社会福祉施設の種別ごとの概要や利用者の特性を知る。また、実習に向けて事前学習をすること、実習後には利用者の現状と保育者のあり方について深く考える。特に、社会福祉専門職としての価値や倫理について知り、意識しながら過ごすことを常とする。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
施設の事前学習を自主的におこなう。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 自分にとっての社会福祉	社会福祉と生活について考える		
2~ 4	実習先研究	実習先の種別や特徴、利用者等について考える		
5	日誌・実習課題などについて	日誌の書き方・実習課題の作成		
6~ 7	社会福祉専門職について	社会福祉専門職とその実際について考える		
8	自己覚知・まとめ	これまでの学びの振り返り 自己覚知		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育相談		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
教育現場における相談技法・理論を学ぶ。 どのような相談内容があるかを知り、保護者の子育て不安の原因を知る。				
授業終了時の到達目標				
相談技術・技法を理解する。 教育現場での相談について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内容		
1	観察法について(問題1)	観察法について学ぶ。 幼児理解のための観察と記録について学ぶ。		
2	幼児を個別・集団として理解するために(問題2)	幼児を理解するために意識すべきポイント		
3	養育困難のリスク要因について(問題3)	養育困難のリスク要因について、保護者・子ども・養育環境の視点から学ぶ。		
4	幼児の不適応行動について(問題4)	幼児の不適応行動について、クラスの間関係・家庭環境の視点から理解する。		
5	レポート①	レポート課題について(カウンセリングスキルの「傾聴」「応答」「質問」について)		
6	カウンセリングスキルについて(問題5)	カウンセリングにおける「受容」「共感的理解」「傾聴」について学ぶ		
7	発達障害の幼児及び保護者に対する支援(問題6)	発達障害について、幼児・保護者にどのように関わるかを学ぶ。		
8	教育現場との連携機関について(問題7)	教育相談を行う上で、連携が必要となる外部機関について学ぶ。		
9	保護者世代の精神疾患について(問題8)	保護者世代の精神疾患について、どのような支援が行えるか学ぶ。		
10	レポート②	レポート課題について(こどもの登園しぶりについて)		
11	園内の教育相談の体制整備について(問題9)	教育相談の体制を整えるため、どのような工夫が必要か学ぶ。		
12	カウンセリングスキル「質問」について(問題10)	カウンセリングスキル「質問」について学ぶ。		
13	育児不安について(問題11)	育児不安を抱える保護者への支援の仕方を学ぶ。		
14	虐待について(問題12)	虐待が疑われる幼児の保護者に対しどのような支援が行えるか学ぶ。		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ	まとめ		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	子育てカウンセリング～幼稚園・保育所で行う保護者のこころのサポート～	期末試験	100.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育・教職実践演習		保育・幼児教育学科/2年	2025/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
将来現場で職務を遂行するにあたり、卒業するまでに身に付けておかないといけない知識や技術等を補足・向上を図る。また、卒業後も引き続き高めていくべき学生自身の課題が何かを意識化することを目的とする。				
授業終了時の到達目標				
これまでの学びを振り返りながら学生自身が補足・向上していく知識や技術等に気づき、学び直しや確認ができること。また、卒業後も変わらずに学び続ける必要のある課題を見付けられること。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストや参考書を用いて予習する。				
回	テーマ	内容		
1~2	オリエンテーション 履修カルテ記入	これまでの学びの振り返り		
3	子どもを取り巻く環境・子育てを知る	子どもの生活環境について考える 地域や家庭について考える		
4	『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』の確認	『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』の比較・検討		
5~7	事例研究	事例の考察		
8~10	保育者として	保育者のあり方 専門職としてのあり方 人としてのあり方 子ども観・保育観など		
11~12	指導案作成・模擬保育・振り返り	模擬保育・振り返り		
13~14	ロールプレイ	事例をもとにロールプレイをおこなう		
15	まとめ 履修カルテ記入	学びの振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
近畿大学テキスト『保育・教職実践演習』 『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅱ		保育・幼児教育学科/2年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
保育所保育指針を理解すると共に、保育所における保育を責任実習を通して様々なことを学ぶことが出来るように事前準備をおこなう。				
授業終了時の到達目標				
保育所保育指針を理解し、子どもの発達を見通し、教材研究をした上で指導案作成をおこなう。また、計画をもとに模擬保育をおこない振り返る、という一連の動きをおこなうことで、保育というものが計画的・実践的・反省的であることを理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
実習に向けて事前学習を自主的におこなう。				
回	テーマ	内容		
1	これまでの実習の振り返り	これまでの実習を振り返る		
2	保育所保育指針について	保育所保育指針の内容確認		
3	自己紹介票、実習課題について	自己紹介票・実習課題の作成		
4	日誌・指導案について	日誌・指導案の書き方の確認		
5~7	模擬保育・振り返り	模擬保育と振り返り		
8	まとめ	実習に関わる伝達と確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ピアノⅡ		保育・幼児教育学科/2年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	22回	3単位(44時間)	必須	山根 公美子
授業の概要				
現場に対応できる実践実技能力のスキルアップと豊かな表現力アップ				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・個々人に添ったスキルアップ ・現場での実践力 ・より豊かな表現 				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内容		
1～4	運指法	五指の役割 指使いのメリット・デメリット		
5～8	譜表の読み取りと指使いの関係 リズムの理解	へ音譜表とト音譜表 音符とリズムの関係		
9～17	伴奏方法のバリエーション	和声の展開と分解 アルペジオのバリエーション ユニゾン・ブリッサンド コードを知る		
18～22	豊かな表現・演奏	打鍵の音色 ペダルの効果とメリット・デメリット 総合的な表現		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート 期末試験	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
総合演習Ⅱ		保育・幼児教育学科/2年	2024/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	44回	5単位(88時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
実習や行事に向けて、計画・準備・実践を通して、企画運営力を身につける。 また、実習に向け、より学びの多い実習になるよう準備を行っていく。				
授業終了時の到達目標				
実践を通して、保育・教育における準備や環境整備の意義を学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
実習に必要な準備を行う。				
回	テーマ	内容		
1	今後の実習についての確認	保育実習 保育実習(施設) 教育実習		
2~4	指導案について	指導案の書き方 教育要領・保育指針のねらい内容の読み解き		
5	実習オリエンテーション等の準備	聞くべき情報や伝えておくべき情報		
6~14	指導案の作成 模擬保育	指導案を作成し、模擬保育を実施する		
15	実習に向けた確認	教育実習		
16	教育実習振り返り	全体での実習の振り返りを行う		
17~18	施設実習について	施設実習の概要		
19~21	実習課題等の確認	施設実習における実習課題の設定		
22	実習オリエンテーション等の準備	オリエンテーション書類の作成		
23~25	実習における過去の事例検討	事例検討による実習準備		
26	実習に向けた確認	施設実習		
27~28	実習の振り返り 自己課題	全体での実習振り返りを行う		
29~31	保育実習に向けて	2回目の保育実習に向けた概要説明		
32~33	実習オリエンテーション等の準備	オリエンテーションに向けた準備		

回	テ ー マ	内 容		
34	実習の振り返り	全体での実習振り返りを行う		
35～ 41	実習での学びを通じた模擬保育	実習で学んだことを取り入れて、模擬保育を行う		
42	実習報告会準備	実習報告会に向けた準備		
43～ 44	実習報告会	実習報告会		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート 製作物	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と造形表現		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	三木 美雪
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図画工作の理論や技術を学び、表現活動を楽しむ ・ 創作活動を通して、造形能力や閑静・発想力を高めていく 				
授業終了時の到達目標				
図画工作における造形能力を育て表現することができる 幼児の造形活動に対して、適切な援助と教育を行える能力を身につける				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	幼児期の造形活動の特徴 幼児造形活動における描画材・素材・用具	年齢、発達段階との関係性から考える。 描画材・素材・用具の可能性について考える。		
2	造形活動のいろいろ 感触遊び・造形遊びから造形活動へ	テーマを決めてつくる活動、描画材・素材を活かした抽象的な造形活動など、造形活動のねらいについて考える。		
3~4	身近な素材を使用した造形活動について①	抽象的な表現 素材に触れ、楽しむことから発展させてつくる。		
5~7	身近な素材を使用した造形活動について②	テーマを決めた表現 描画材の特徴を生かしてつくる。		
8	自己評価・合評会	制作した作品を通じた造形活動のねらいや気づきについて、プレゼンテーション形式で発表する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		スクーリング	100.0%	【準備学習】次回予告されている課題について、考えておく

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と健康		保育・幼児教育学科/2年	2025/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	藪内 正樹
授業の概要				
1. スポーツを通じて体力を養う 2. 体育の考えに基づき、行動力・判断力を養う 3. スポーツを通して、運動すること、させることの大切さを学ぶ				
授業終了時の到達目標				
1. 実技・実習などの現場での生きる力として使えるようになる 2. 情報のインプット、アウトプットを意識し、運動ができるようになる 3. 与えられた環境・時間を使い、適確な運動指導が安全に行えるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	体力の大切さ、スポーツとは	(1) 身体活動の基本であるという認識をもつ		
2	体力の大切さ、スポーツとは	(2) 楽しみであるという認識をもつ		
3	どのようにスポーツを行うのか	安全管理、安全指導の基本		
4	どのようにスポーツを行うのか	なぜこれをやるのかと言う目的意識をもつ		
5	スポーツ指導の際の注意点	(1) コミュニケーションのとり方を大切にする		
6	スポーツ指導の際の注意点	(2) 安全管理・安全指導の意識をもつ		
7	スポーツ指導の際の注意点	(3) 集団が目的とする方へ導く		
8	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		演習	100.0%	【準備学習】普段から運動に親しみ体力をつけておく

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会的養護Ⅱ		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	太田 敬志
授業の概要				
社会的養護の復習 具体的な支援について事例をもとに検討する				
授業終了時の到達目標				
様々な社会的養護を利用する子どもたちへの具体的な支援方法を学ぶ セラピューティックホールドやタイムアウト法について学ぶ				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内容		
1	社会的養護の理論と実際	社会的養護にかかわる施設での保育士の役割 倫理綱領		
2	社会的養護の理念と機能	社会的養護の理念 社会的養護の機能と役割 社旗的養護の法制度		
3	社会的養護を必要とする子どもの理解と権利	子どもの権利条約 子どもの権利ノート 児童虐待 措置児童虐待		
4	施設養護のプロセスと記録および評価	アドミッションケア・インケア・アフターケア 記録の意義と目的・種類 第三者評価		
5	施設への入所前後の支援	被虐待により短期間施設入所を利用し、家庭復帰した子どもの事例から学ぶ もし、自分の勤務している保育所で虐待を疑われる子どもがいたらどうするか		
6	里親委託	児童養護施設から里親へ措置変更した子どもの事例から学ぶ 里親制度の復習		
7	セラピューティックホールドとタイムアウト	パニックをおこした子どもへの具体的対応方法について学ぶ		
8	高校を中退した子どもへの就労支援	15歳以上の子どもたちへの支援内容と方法について学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
演習・保育と社会的養護実践		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽表現技術		保育・幼児教育学科/2年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	山根 公美子
授業の概要				
幼児の音楽指導において、より高い技術を身に付ける。				
授業終了時の到達目標				
現場において、子どもたちの豊かな情操を育むための音楽指導力と音楽表現力を習得する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~ 2	弾き歌い	“どう伝わるか” “どう伝えるか” 演奏の内容を意識する習慣をつける		
3~ 4	伴奏付け	和音付けができ、更に様々なジャンルを表現するための伴奏付けを学ぶ ⇒ 演奏練習		
5~ 6	アインザッツと歌詞はさみ	イントロとアインザッツの練習 歌詞はさみの練習		
7~ 8	アンサンブル指導	幼児が楽しんで演奏できる範囲でのアレンジと指導の仕方を学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 期末試験	50.0% 50.0%	【準備学習】 これまでの課題の練習をおこなう。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育実習		保育・幼児教育学科/2年	2025/通年	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	90回	4単位(180時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
幼稚園における教育や幼稚園教諭の役割などの実際を知り、実践をおこなう。				
授業終了時の到達目標				
自分が立てた実習課題を達成する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
実習に必要な準備を行う。				
回	テーマ	内容		
1~90	幼稚園における教育や幼稚園教諭の実際と実践	教育 幼稚園教諭		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習 I (施設)		保育・幼児教育学科/2年	2025/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位(90時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
施設における保育や施設保育士の役割などの実際を知る。				
授業終了時の到達目標				
自分が立てた実習課題を達成する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
実習に必要な準備を行う。				
回	テーマ	内容		
1~45	施設における保育や保育士の実際	保育 施設保育士		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態	
保育実習Ⅱ		保育・幼児教育学科/2年	2025/後期	外部実習	
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員	
90分	45回	2単位(90時間)	必須	藤原 希	
授業の概要					
保育所における保育や保育士の役割などの実際を知ると共に、学生自身も実践する。					
授業終了時の到達目標					
自分が立てた実習課題を達成する。					
実務経験有無		実務経験内容			
時間外に必要な学修					
実習に向けて必要な準備を行う。					
回	テーマ	内 容			
1~ 45	保育所における保育の実践	保育			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他	
		実習・実技評価	100.0%		